



イマジン
ロータリー

2022～2023年度

滝川ロータリークラブ

会長 藤井 謙和

- 例会日：毎週木曜 PM12:30より
- 例会場：ホテル三浦華園
- 住所：滝川市花月町1-2-26
- 電話：(0125)-22-3344
- FAX：(0125)-24-2755
- メール：takikawarc@gmail.com
- WebSite：www.rotary.gr.jp

第3321回 例会報告 令和4年12月8日（木）

会長挨拶



先日札幌に行きましたが雪は殆どなく、滝川は相変わらず雪が多いと実感した次第でございます。一昨日の夜、滝川警察署との防犯協定による「三楽街における暴力排除啓発活動」としてパトロールに安海滝川警察署長、前田市長、芳村社会奉仕委員長らと共に参加して参りました。以前は滝川の飲食店は約450軒あり人口比率では日本一、二を競っておりましたが、現在では150軒程と寂しくなりました。コロナの影響でお客様の足も遠のいていくと聞きますので、皆さんそれぞれの立場もあると思いますが状況を判断しながら夜の街にも繰り出して頂きたいと思っております。さて、今日は昭和初期の滝川、人造石油についてのお話です。私は当時小学生でしたので記憶に残っておりますが、名前は知っていても実際のところを知らない方が多いと思っておりますので、理解を深めて頂ければと思います。

幹事報告



1. 12月のロータリーレートは1ドル138円です。
2. 先程の会長挨拶にもございましたが、「三楽街における暴力排除啓発活動」の様子が12/7付のNHK NEWS WEBで配信されておりますのでご覧下さい。

前回のプログラム（2）

（右の続き）当時の滝川町の人口が14,000人でしたから、いかに多くの人達が工場の建設に携わっていたかが解ると思えます。当時は、木造建築が主流だったのですが、最新の技術を使ったコンクリート製の建物がいくつも出来上がり、総工費は現在の金額で8,000億円～1兆円かかったと言われております。そして、1942年12月8日待望の初めての石油が製造されました。この石油は郷土館に保管されておりますが、人造石油滝川工場で製造された現存する石油はこれだけで大変貴重です。1945年終戦を迎えますとGHQから人造石油製造停止命令が下され、この工場の役目を終えます。その後、民間企業により再建を図りますが上手くいかず倒産しました。広大な敷地を活かすため北電の火力発電所や陸上自衛隊が誘致されました。工場の建物で唯一残っているのが滝川駐屯地の本部隊舎です。

前回のプログラム [講師卓話]
- 人造石油滝川工場から学ぶ80年前の滝川 -
【プログラム委員会担当例会】



滝川市教育委員会
美術自然史館

学芸員 永井 芳仁 様
まずは、北海道人造石油株式会社滝川工場についてお話させていただきます。この工場は石炭から石油を作る工場で、この技術はドイツで発達しました。この工場を作るときに滝川で尽力した中のお一人が神部為蔵（神部俊克会員の曾祖父になられます）滝川町長です。神

部町長はわずか2日間で117ヘクタールの建設地を用意しました。117ヘクタールとは東京ドーム25個分の広さです。滝川は石狩川があるため工業用水の確保が出来、赤平・芦別・歌志内等で採掘された石炭を輸送するのに便利な交通の要所であるため滝川が選ばれました。工場の建設は、重機など無い時代でしたから、人力で行い多いときには一日4,000人の労働者が働いておりました。

＼(^o^)／ニコニコBOX報告（敬称略）

安達晃幸・大滝裕慈・高山訓正・前野史賀
＜小計13,000円・累計976,050円＞

編集／クラブ会報委員会 発行日：令和4年12月14日

出席報告 12月8日

会員数	病欠	免除	出席	欠席	出席率
89名	2名	7名	49名	40名	57%

- メイクアップ：入井会員
(12/2地区委員会12/7米山全国委員長会議)
藤井会長・桜井幹事・芳村会員・山崎会員
住吉会員 (12/6 三楽街 暴力排除啓発活動)

- ゲスト：滝川市教育委員会 美術自然史館
学芸員 永井 芳仁 様

【今週の寄付】（敬称略）

- ◆米山： 上田秀司・竹田行宏
＜小計32,000円・累計598,000円＞
- ◆財団： 上田秀司＜小計150ドル・累計5,523ドル＞